

contents

- ◇◆◇ はじめに ◇◆◇
- ◇◆◇ 文部科学省からお知らせ ◇◆◇
- ◇◆◇ JICA地球ひろばから教材のお知らせ ◇◆◇
- ◇◆◇ 「帰国隊員／青年支援プロジェクト」について ◇◆◇
- ◇◆◇ 編集担当者からのお願い ◇◆◇

◇◆◇ はじめに ◇◆◇

7月に入りましたが筑波は午前の肌寒い曇り空から、
午後にはいくぶん強い日差しが射してきました。
梅雨が明ければ去年同様、猛烈な暑さが続きそうです。

さて平成20年隊の方々は現地訓練が始まって、
自分も意外にやるなあと、市場に行ったら愕然となったり
していませんか。任国を肌で感じる安堵と任地がちがつく
緊張が入り混じって…、というところでしょうか。
皆さんの梅雨空や暑さを忘れさせるニュースや報告を
期待しています。

◇◆◇ 文部科学省からお知らせ ◇◆◇

文部科学省では、大学等の協力を得て、
青年海外協力隊派遣現職教員の
派遣前、派遣中、帰国後の活動を支援しており、
今年度は4つの活動 (<http://www.criced.tsukuba.ac.jp/jocv/support/index.html>)
が開始しております。

これに加えて、
今年度新たに実施する活動を現在公募中です。

▼詳しくはこちら

- 平成19年度活動の成果物については、
以下のページをご覧ください。

→ <http://www.scp.mext.go.jp/archives/index.html>

(※国際協カイニシアティブのホームページへリンク。
活動成果→「平成19年度国際協カイニシアティブ
教育協力拠点形成事業—青年海外協力隊派遣現職
教員の支援—成果物のご案内」参照)

- 公募詳細については、以下のページをご覧ください。
→ <http://www.scp.mext.go.jp/other/index.html>
(※国際協カイニシアティブのホームページへリンク)

◇◆◇ JICA地球ひろばから教材のお知らせ ◇◆◇

===伝えよう、あなたの想いを ～開発教育のススメ===

JICA-Netマルチメディア教材
「伝えよう、あなたの想いを ～開発教育のススメ～」が完成しました。

これは、主にJICAボランティアの方々が
「JICA国際協力出前講座」などを通じて、
現地での体験・経験を日本の社会、特に学校現場に
還元する際に必要となるノウハウを知るための学習教材です。

開発教育を学ぶことの意義の説明をはじめとして、
ジンバブエでのバスケットボール指導の経験を持つ協力隊OBや

タイでの作業療法指導の経験を持つOGによる
実際の講座の様子を映像で紹介。

参加者の興味をひきつけ、効果的に
国際協力の経験を伝えるためのポイントや、
学習教材の作り方、講義内容の組み立てのポイントも
丁寧に解説しています。

派遣中から取り組むことのできる内容、
例えば、現場でできるだけ素材を集めておくこと、
現地の人々の思いを集めておくこと、など、
具体例とともに紹介しています。

参考情報として資料集、リンク集を併せて収録。

ボランティアの経験を帰国後に日本社会に、
教育現場で伝えるうえで、単なる体験談に終わることなく
普遍的なメッセージを伝えるために必須のツールです。

是非ご覧下さい！

この教材は、CDとして配布しているほか、
JICA-Netホームページ

(<http://www.jica-net.com/CD2/07PDRDM012/index.html>)

でも公開しています。
ご興味のある方は、下記のお問い合わせ先までご連絡下さい。

(JICA事務所にも配布しています。
派遣中の方はJICA事務所までお問い合わせ下さい。)

【問い合わせ先】

JICA地球ひろば
市民参加協力促進課

担当：海老原

TEL:03-3400-7717（代表） Eメール: jgpcppt@jica.go.jp

◆◆◆「帰国隊員／青年支援プロジェクト」について ◆◆◆

クロスロード6月号40ページの募集記事を目にして、
すぐに担当の方に電話をしました。
帰国後の還元活動の財政的支援の可能性と、
活動展開のヒントを含んでいるように思われますので、
以下要約します。（鎌田）

平成20年度「帰国隊員／青年支援プロジェクト」募集について、
(社)協力隊を育てる会 「支援事業」担当の方にお伺いしました。

質問：〈支援の対象〉(1) 協力活動に、
“国内外で開発途上国等のために協力活動を行っている、
もしくは行う準備をしている方”とありますが、
派遣現職教員が帰国して行う国際理解教育は対象になりますか。

回答：可能性はあります。
ただし単純に日本の子どもに教えるのではなく、
どう展開するかということが大切です。

質問：どういう国際理解教育が対象になりますか。

回答：授業に在日外国人の支援を含むとか、
国外の方々を巻き込みながら一般的な
社会に還元・波及させられるような活動です。

質問：帰国後何年経ってからでも応募できますか。

回答：はい、できます。ただし年齢制限は40歳までです。

質問：今年度の採用予定数はどれくらいですか。

回答：大体5～6件です。
今年度が初めての募集ですので是非応募してみてください。

157 (応募資格・方法については、<http://www.sojocv.or.jp/>
158 を参照してください。)

159
160

161
162 前回のメールマガジンでも触れたことですが、
163 地域で様々な多文化共生の取組が行われています。
164 これに加え、最近の企業・自治体・団体の
165 環境教育・食農教育などへの参加によって、
166 これらのテーマが単なる教育課題ではなく、
167 私たちの生活と密接に結びついたグローバルな課題である
168 ことが理解されるようになったと思います。

169
170 地域の多文化共生の取り組みの活性化の中で、
171 学校の国際理解教育も多様な展開が可能では
172 ないかと思います。その場合、予算確保が新たな課題と
173 言えるでしょう。

174
175 新しい学習指導要領では総合的な学習の時間が
176 減らされることになりましたが、
177 今あなたが温めている授業や教科の枠を越えた国際理解教育や、
178 多文化共生の一環としての教育活動のアイデアを
179 応募されてみてはどうでしょうか。(鎌田)

180
181

182
183 ◇◆◇ 担当者からのお願い ◇◆◇

184
185 7月は帰国された先生方の国内活動の紹介マップを
186 充実させようと考えてます。突然メールかお電話を
187 差し上げるかもしれませんがご協力をお願いします。

188
189 * * * * *

190 鎌田 亮一 (Ryoichi KAMADA)
191 kamada@criced.tsukuba.ac.jp
192 (メールマガジン担当)
193 筑波大学教育開発国際協力研究センター
194 〒305-8572 茨城県つくば市天王台1-1-1
195 TEL/Fax 029-853-6573

196 * * * * *